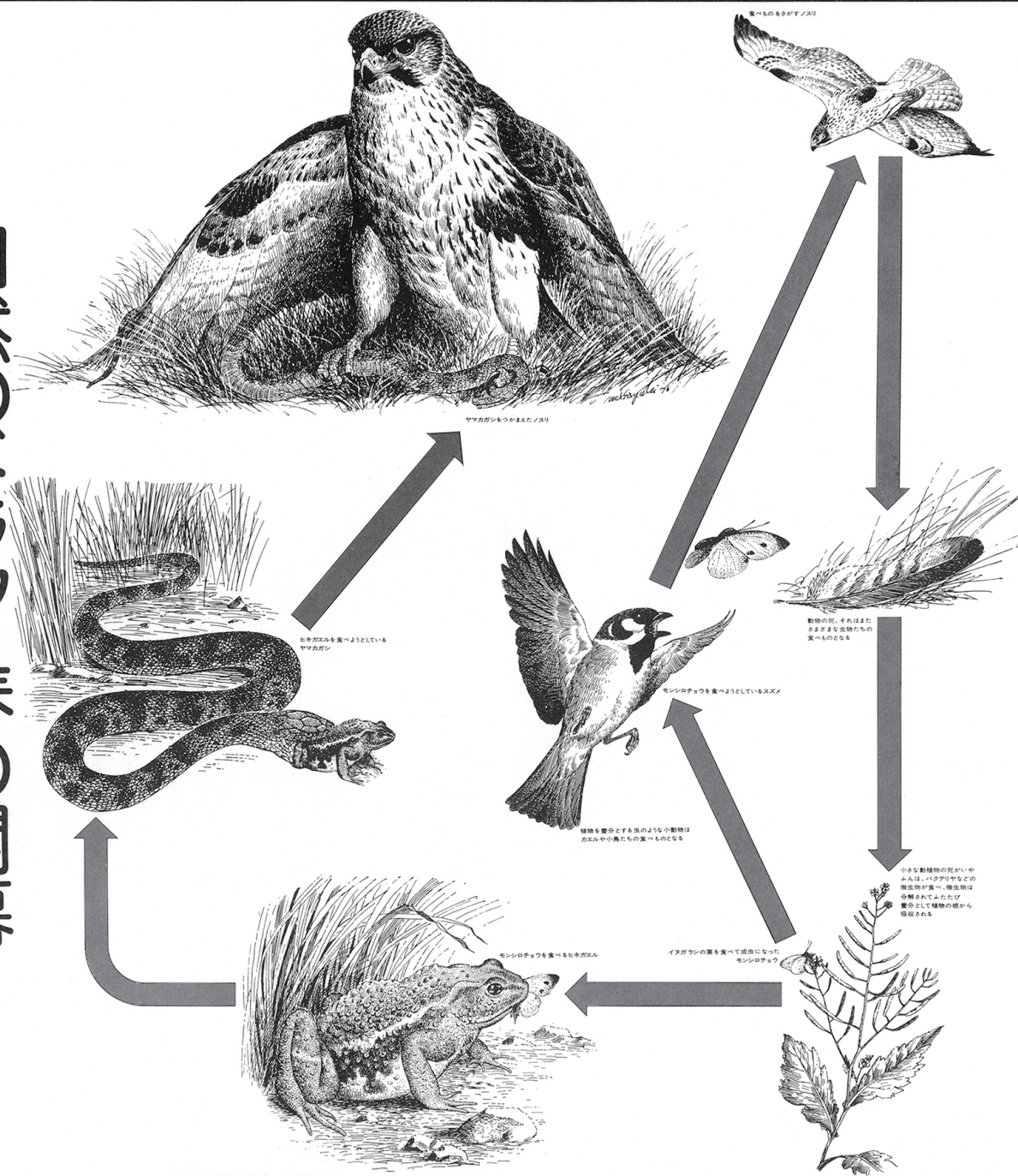


自然のドラマ 春の開幕



自然のドラマは 食べる・食べられること

動物、植物を問わず、すべての生物には長いあいだ保たれてきた自然の大原則があります。それは「持ちつ持たれつ」——つまり、ことばを変えていえば、お互いに食べたり食べられたり、という関係の中で生活しているわけで、これを「食物連鎖」と呼んでいます。

植物は太陽エネルギーを吸収し、水と炭酸ガスから炭水化物をつくり、栄養と体の材料になるものを自分の力で作りだす。ということは、植物は他の生物の助けを借りずに生活できるわけですが、動物はどうでしょう。動物は、植物か、または他の動物をグツモノとして求めなければ生きていけません。このように、植物が食べ、植物を食べる動物がいて、その動物を食べる肉食動物がいて、それをもたまた食べる動物がいて——というようなつながり、これが「食物連鎖」の基本的なつながりです。イラストレーションをご覧ください。私たちがよく目にするほとんどの場合、この、食物のつながりで成り立っています。

自然のたくみ 持ちつ持たれつ

動物の中には、生物の死がいやふんを食べて生活しているものもいます。落葉や枯木、それらの亡くなったものを食べる動物もいます。また、バクテリアなどの微生物も、動植物の死がいやふんをこころうにしています。これらの生物によって、死がいやふんはだんだん分解され、微生物たちも死んで生は生まれ、また死んで生は生まれ、やがて雨水とともに土の中に溶けいき、ふたたび植物の根から養分として吸収されて植物の体の一部になり、そしてまた、その植物を食べにくる動物の体の一部となり……

このようにして、生物同志のあいだの作用がうまく働き、そしてまた、生物をとりまく環境とのつり合いがとれている限り、自然は全体としてバランスのある「持ちこたえつた社会」というより、これこそがほんとうの自然なのでしょう。をつくっているのです。そしてそれは、食う食べられるという関係で結びつけられている生物たちの、それぞれの種が、自然のバランスがくずさない限り、他の生物の数を調整する役目を果たしていることを意味します。

いま、自然のバランスがくずれない限り、
 といいましたが、実は、このバランスをこわし
 ているのは私たちヒトかもしれません。ヒト
 もまた自然の一員である限り、図のような、
 自然のドラマに介入する権利はないはずなの
 ですが、果たしてどうでしょうか。



財団法人日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリー株式会社がシリーズとして制作するものです。

(日本鳥類保護連盟募集第一席入選愛鳥標語)

愛鳥の心が育てるよい環境 34

●美しい自然＝「庭に小島を」のパンフレットをさしあげます。ご希望の方はお名前と住所・性別・年齢・職業をお書きになり送料として切手140円同封のうえ下記までお送りください。
平103-91 東京都中央区日本橋局区内私書箱第231号サントリー株式会社愛鳥キャンペーン係